

SUZUKA UNIVERSITY LIBRARY NEWS

2025 年度
10 月号



こんにちは！ 附属図書館です。

暑い夏も終わり、過ごしやすい季節になってきましたね。
秋と言えば・・・『読書の秋』『食欲の秋』『スポーツの秋』と
いろいろありますが、みなさんはどんな秋をお過ごしですか？
読書には、集中力を高め、ストレスを軽減する効果があるそう
です。秋の夜、じっくりと読書をしてみてはいかがでしょうか。

【 9 月の展示 】

近隣住民の方も利用しやすいよう
2 階の絵本・児童書・紙芝居が
1 階に引っ越しました ♪



新着本

[10月展示]

音成先生

～日本語能力試験に向けて～

先生のおすすめ図書です。たくさん活用してください。



お知らせ

『鈴大祭』を 11/8(土)・9日(日) 開催します！！

図書館では、8日に手作り絵本の制作と日本語・多言語による絵本の読み書きせ
～ファンタジーの世界を広げよう～ を開催します。

『鈴大祭』の詳しい内容は大学 HP をご覧ください。

11/7(金)は学祭の準備のため
12:00～閉館いたします。



宮島 未奈：作家

おすすめ本

『蹴りたい背中』

綿矢りさ / 河出文庫



1983 年生まれ。2023 年『成瀬は天下を取りにいく』（新潮社）で小説家デビュー。2024 年本屋大賞、第 39 回坪田譲治文学賞など 18 冠達成。続編『成瀬は信じた道をいく』とあわせてシリーズ累計 100 万部を超えるベストセラーに。ほかの著書に『婚活マエストロ』（文藝春秋）、『それいけ！平安部』（小学館）がある。趣味は編み物。

さびしさは鳴る。

この本の書き出しです。

学校になじめない高校一年生のハツは、ふとしたきっかけで同じクラスのにな川と交流するようになります。

友だちでもないし、ましてや恋人でもない。そこに流れる関係がひと夏の出来事とともに綴られる……というの
もちょっと違う。とにかく読んでみてください！としか言えません。

小説とは一冊かけてこういう気持ちを書くためのものだ気付かされました。

メッセージ

わたしが『蹴りたい背中』をはじめて読んだのは大学生の頃でした。登場人物の年齢が近いせいもあり、共感する部分が多かったです。

あれから 20 年が経ち、家族を持った今でも、ふとさびしさが鳴ることがあります。

きっとこの先もさびしさはわたしのそばにあって、付き合っていくものなのでしょう。

今さびしくてつらい人はそれを無理に乗り越えようとしなくても大丈夫。

本を読んだりゲームをしたりして、とにかく生きていてほしいです。

『 モモ 』



ミヒャエル・エンデ作 大島かおり訳 /岩波書店

短期大学部 食物栄養学専攻

萩原 智美 助手



「モモ」を読んで・・・

この本を読んで、「時間」について考えた。

モモはみんなの話をよく聞いてくれる、楽しい話、つまらない話など相手の話をじっと聞いてくれる女の子だ。

モモがいて、けんかをしてても仲直りをし、悲しんでる人は元気になる、その人に自分自身を取り戻させてくれるそんな女の子だ。

しかし、「灰色の男」たちにより町の人大切な時間が盗まれ、心のゆとりをうばわれ、生きる事をうばわれる。

「灰色の男」たちは時間を節約しなさいと言い大人をだまし、こどもと遊ぶ時間も、友達とおしゃべりする時間もなくし、仕事ばかりし、お金儲けばかり考えるようになった。

いろんなことが、生活が、時間がつまらないものになってしまった。

私の近くにも「灰色の男」がいるのかもしれないと思った。

毎日、忙しい忙しいと言い普段の生活で急いでばかりいる自分を振り返った。時間に追われ効率ばかりを追求してしまい心のゆとりがなくなってしまうかもしれないと思った。

「時間節約」ではないが家族や友人との時間も犠牲にしているかもしれない。

家族でさえゆっくり話す時間がなくなっている気がする。

モモのようにじっくり話を聞いてあげることでみんなの心が軽くなっていく、心が解放される。

わたしもっとも人の話、家族の話をゆっくり聞いてあげるべきではないかと感じた。人が困っているときは最後まで話をきいてあげたいと思う。

そして話を聞いてくれる人の大切さにも気づかされた。

この本を読んで大切なことは時間の節約でもなく、お金儲けでもなく、家族や友達と楽しい時間を過ごすこの瞬間なのだと感じた。

この普通のことが最も特別なことなのかもしれない。